

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891600039		
法人名	特定非営利活動法人 淡路島シャロームの会		
事業所名	グループホーム くるま花木		
所在地	兵庫県淡路市久留麻236		
自己評価作成日	平成30年3月25日	評価結果市町村受理日	平成30年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年4月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.日々の暮らしの中で、音楽療法・赤ちゃん療法等、利用者個々の思いを活かした支援を心がけている。
2.ホームの中庭には季節の花が、背後の田畑には米や野菜が植えられ、四季を通じての楽しみとなっている。
3.食事は、隣接する田畑でとれた新鮮な食材を使って職員も一緒に食事をとるオープンで家庭的な雰囲気づくりを心がけている。
4.散歩や行事などの日常的な外出、家族や知人の訪問、地域ボランティアの訪問など、利用者を地域社会の一員として支援することを心がけている。
5.平日にスタッフが子連れ出勤し入居者様と一緒に生活リハビリやレクリエーション食事などをし、利用者様の癒しや生きがいになっている。

事業所は市の地区総合事務所、保健センター、市民文化センターなどに隣接する至便の場所にあり、すぐ近くの社寺は利用者にとって格好の散歩コースと地域住民と触れ合う場所になっている。利用者の居室の中も含めて全ての床はクッション入りで、リビングには床暖房を施し、天井からのガラス垂壁が火災発生時の煙から利用者の居室を守っている。法人の使命として「感謝」「思いやり」「社会貢献」を掲げており、時には理事長も利用者と一緒に食卓を囲み、ホーム長が弾くピアノに合わせた利用者の元気な歌声がリビングに広がる。利用者の高齢化と重度化が進む中、職員は利用者ごとの適度な距離を保ちながら見守ることで、自主性を重んじるとともに残存機能の保持に努めている。これからも家庭的な雰囲気を大切にし、利用者と職員の笑顔が溢れる事業所であり続けられることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己 者 第三	項 目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に理念についての説明をし同じ方向を向く様にしている。 問題が起こる度に会議を開き理念に添っているかを考えることで方向を立て直して理念に立ちかえるようにしている。	理念として、利用者の支援に関しては「利用者中心の生活」「安心と尊厳」「地域社会の一員としての暮らし」を、そして職員に対しては「豊かな感性と人間性」を掲げている。毎日の引継ぎ時に唱和をすることによって、職員に周知徹底している。対外的には発信していない。	パンフレット等に掲載することによって、理念に関する職員の自覚が更に強まるのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひまわり作業所が出張喫茶に来ている。 初詣・近くのお寺・広場へ散歩等に出掛けると近隣地域住民との交流がある。	町内会に加入している。地区の情報は市の広報誌から得ている。毎月、利用者は職員と一緒に公民館へ行き、地域の住民に交じて認知症予防体操をしたり、管理者が弾くピアノに合わせて歌うのを楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者および入居希望の家族からの相談に乗るなどして、持っている知識、経験を地域に還元している。 実習生や研修生を積極的に受け入れ、認知症ケアの知識を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自立支援への取り組みを利用者家族様毎回一組発表している。会議では、出席者からの意見や要望を頂き、外部の考えも柔軟に取り込む姿勢を持っている。また評価の結果と課題についての取り組みや現状の報告を欠かさず行っている。	隔月に開催している。毎回、1組の利用者と家族、老人会代表、市職員、社協、地域包括が参加している。毎回、利用者に対して行っている自立支援の具体的な内容を発表している。議事録は作成しているが、事業所内のファイルに留まっている。	議事録を推進会議の参加者と全家族に送付されたら、事業所のPRにつながるのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所での取り組みを伝えと共に市の担当者の方にいつでも相談できるようにしている。	市の担当部署とは、運営推進会議を通じて関係性を築いている。地域の同業者との交流が無いことから、事業所は日本グループホーム協会の兵庫支部の会員として会合に参加し、情報共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員が入る度に、身体拘束をしない教育を行っている。 職員もその意義を十分理解して、束縛の無いケアを実践している。 外部からの不審者侵入防止のため玄関は施錠している。	マットと赤外線による離床センサーを数名の利用者に使用している。センサーが反応して職員が利用者の居室に駆けつけた際、身体拘束にならないようなケアを指導している。身体拘束排除のための事業所指針を、現在作成中である。	離床センサーの使用が常態化しないよう、定期的な検討の場を持って頂きたい。

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関: 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己 者 第	三	項 目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の報道があれば、会議で取り上げ問題点を所内で話し合う機会を設けている。特に、言葉や態度等による心理的虐待が見過ごされることがないように気をつけ、事業所内での意識も高まっている。	利用者の尊厳を損なうことなく人生の先輩として接するように指導している。職員がストレスを溜め込まないように、管理者は折に触れて話を聴くようにしている。精神的虐待のグレーゾーンに該当するケアなど、今後研修していきたいと管理者は考えている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用している方もおられたので後見制度についての事業所内研修も行ってから権利擁護や成年後見制度についての理解を深めている。新入職員については、実施できていない。	成年後見制度などについては、契約時の説明では触れていない。最近、研修が遠のいているので、概説資料を取り寄せるとともに、地域包括に依頼して運営推進会議で簡単な説明をする機会を設けたいと、管理者は考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項について説明し、同意を得るようにしている。とくに、入院や看取りなど事業所の対応可能な範囲について説明し、納得してもらったうえで契約を結ぶようにしている。	重要事項説明書と契約書の内容に沿って丁寧に説明し、納得を得ての契約となっている。重要事項説明書の中に、認知症専門ケアや看取り介護などの加算項目を記載していない。看取りに関しては、事業所の指針を説明して同意書を貰っている。	必要な加算項目は、明記されるようにお勧めします。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは生活を共にする中で思いや要望等を把握するように心がけている。家族とは来訪時や電話、スタッフに伝え話し合う機会をもち、出された意見や要望を運営に反映させるよう努めている。	家族の来訪回数は毎週や年に1度だけなど様々であるが、来訪の都度、要望や意見を聴く機会を設けている。内容は利用者個々のケアに関する事が多く、事業所の運営に反映するような事項は無い。開設以来、利用者・家族宛ての満足度調査をしたことは無い。	開設後10年を節目として、満足度調査をされたらどうだろうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや各委員会活動を通じて、職員が事業所の運営や重要な決定に直接関わる機会を設けている。	日々の引継ぎミーティングに管理者も参加して職員の意見を聴くようにしている。夜勤専門の職員を増やして職員の負荷の軽減を図ったり、排泄ケアで新しいパットを試すなどの工夫につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も食事に参加し、職員の日頃の努力や勤務状況等を把握するとともに、各自がやりがいと向上心を持って働けるような環境整備に努めている。自主残業等も手当てをつけるようにしている。個別で話しやすい雰囲気を作っている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関: 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己	者三	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員の力量に応じ、外部の研修に積極的に 参加するように推進している。 とくに、教育研修活動の一環として、「キャリ アアップ助成制度」を創設し、初任者研修 等、資格取得を勧め、多様なサービスに対 応できる職員の育成と定着を図っている。 ネット等で見られるようにし、職員全員で新 しいケアの方法を共有しながら、実践に活 かせるようにしている。職員間で指導しやす い雰囲気を作るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	他施設での実習や反対に実習生の受け入 れを積極的に行っており、報告と共に学ん だことを職員にフィードバックしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談ではご本人の希望や不安を理解 するようしている。 職員本人の話をゆっくり聴く時間をとり安心 できる関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族等との関係を大切にし、事業所としてど のような支援が出来るか、電話や面会で話 し合いを十分に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思い、状況を見極 め、早急な対応が必要な場合には、デイ サービスの利用などを含めた柔軟な対応に 努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を理解すると共に、気遣いのない自 然な生活が送れるような関係を大切にしてい る。 食事お茶も同席している。		

自己 者 第	三	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、必要時には 連絡をとり、共に支え合う姿勢をとっている。 ほとんどの家族はそれに応じてくれている。 変化があった時には家族様に報告や相談を するようにしている。いつでも面会に来て頂 けるようにしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のもっている思いや、こだわりの場所 等、話や写真で話題にして、穏やかに過ご していただく支援をしている。 また近隣のスーパーに買い物と一緒に出か けている。	近隣の社寺への散歩やスーパーでの買い物 が、利用者の新しい馴染みとなっている。ハロウ ィンに近く子どもたちが仮装して訪れ、歌を歌っ てくれるのが利用者の毎年の楽しみとなっている。 年賀状や電話を取り次いで、馴染みの継続を支 援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	親しい関係の利用者同士、近くの席を用意 したり、難聴の方や男性の利用者等は職員 が中に入り、孤立しないよう人と人の関わり を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族と連絡をとる機会 をもち、その後の様子を伺うようにしている。 お花を届けてくださる家族様もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中で出来ること、得意なこと 等本人本位で把握するよう努めている。 表情などから気持ちを読み取るようにしてい る。	コミュニケーションが難しい利用者があるが、表 情や仕草から思いや意向を汲み取るようにしてい る。ユマニチュード(認知症ケア)手法から学んだ 方法で接すると、利用者に安心感を与え表情が豊 かになり意向の表出も進むと、管理者は感じてい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人の入居前の生活を把握し個別ケアの 実施に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握	毎日の観察、引継ぎ等で、個人の変化を職 員全員で共有するようにしている。 利用者1人ひとりについて支援表を作成し、 情報を共有しながら実践に活かしている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関: 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己	者 第	項 目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月度に一度、とくに変化があった場合はその都度、ケア会議等を通じて現状に合った介護計画を作成あるいは見直し、チームで実践している。	ほとんどの場合、2人の職員が2人の利用者の主担当をしている。主担当と計画作成担当者が介護計画案を策定し、ケアマネがまとめている。ケアマネと管理者も参加するケア会議でモニタリングし、半年ごとの計画更新につなげている。モニタリングシートに、対象となる介護ニーズの記載がないのでモニタリングが分かり難い。	介護支援ニーズに対する評価が分かり易いモニタリングシートを工夫されたらどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録連絡ノート引継ぎノートを個別に記入し、引継ぎ時に変化があれば報告し、情報を共有しながら実践に活かしている。また、必要に応じて新しい介護計画に取り入れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得ながら、通院、帰宅等本人のニーズを優先したり、入居希望の方で空きがない場合、入居までの間、デイサービスの利用を勧めるなど、その時々に応じて柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお寺の境内へのお花見や散歩、コンサート等への参加を通じて、地域の方々と触れ合う機会を持つようにしている。また、地域のボランティアの訪問等によりハンドマッサージや園芸・音楽を楽しむことができる支援をしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診ができるよう、通院や往診をしてもらっている。体調の変化や医療情報は、全職員が共有できるようにしている。通院支援については、事業所と家族の役割分担を決めている。	複数の医療機関が往診しており、利用者は希望の医師に診察してもらっている。希望すれば歯科の往診もあり、利用者の気持ちに寄り添った診察が行われている。24時間訪問看護師と連絡が取れ、協力医と連携し適切な治療が受けられるよう支援している。他科受診については家族の協力を得ている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関: 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己 者 第	三	項 目	自己評価	実践状況	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により、日ごとの健康管理や状態変化に応じ24時間支援を行い、適切な医療につなげている。体調変化があれば、些細な事でも連絡表ノートに書き込み、看護師の訪問時に確認できるようにし、対処している。24時間連絡が取れるようにしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する必要な情報を医療機関に提供するとともに、家族や医療機関と密接に連携を取りながら、本人の速やかな退院に向けた支援をしている。入院時もスタッフが面会し、ホームの話などをして、関わりを途切れないようにしている。	今年度は、骨折等で複数の入院事例があった。入院時、近隣の病院へは職員が見舞い、遠方の病院とはFAXや電話で情報交換しながら、早期の退院に向け支援している。ほとんどの利用者が1～2か月で退院してホームに戻っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取り指針を整備し、入居時に本人や家族に説明している。ターミナルケアについては、本人や家族の意向をくみとりながら、家族や医療機関、かかりつけ医と密接な連携を図りつつ、チームで支援する取り組みを行っている。	契約時に事業所の方針を説明し、利用者、家族の意向について聴いている。また、状態が深刻化した際にも再度、意向を確認している。今年度、複数の看取りがあり、医療機関や訪問看護師と協力し、利用者と家族の意向に沿う形で穏やかに見送ることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等は訪問看護、かかりつけ医と連携し対応している。消防署の協力を得て、毎年、応急手当、心肺蘇生などの研修を定期的に行い、緊急時の対応ができるようにしている。また、離苑等の緊急時に備えて、緊急連絡網を整備している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方、消火設備の点検などを定期的に行っている。消防署及び近隣住民への自動火災通報体制を整備し、地域との協力体制を整備している。避難所として、隣接のケアビレッジへ避難場所としている。	年2回、消防署と連携して避難訓練を実施している。近隣住民や近隣に住む職員などと協力して、利用者を避難させる体制を整えている。大地震発生時には、併設事業所の2階へ避難することを考えているが、訓練実施までは至っていない。	想定される大地震の津波に対する避難訓練も実施されてはどうだろうか。

自己	第三者	項目	自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者との会話は敬語を基本としているが、一人ひとりの生活歴や状況に応じて地元の言葉を使うなど、声かけに配慮している。 トイレ誘導は、「あちらへ一緒に行っていただけですか」等の声かけをしている。	年長者として敬意を払い、名字で呼び敬語で話しかけている。失禁を想定しプライバシーに配慮して、廊下に出ることなく浴室に移動できるように、トイレが配置されている。シフト等の関係で、やむを得ずドアを半開きにして、トイレ内の利用者を見守ることもある。	リビングに面していないトイレにも、カーテンを設置して、中が見えないような工夫をされているかが。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の様々な場面において、利用者が意思表示し、自分で決定出来るような声かけを行ったり、意思表示が難しい場合でも表情や反応を見ながら出来るだけ自分で決め、一人ひとりが納得しながら暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に意思決定して頂き、判断が難しい事は職員が支援する。その日の体調や様子を見ながら、本人のペースに合った生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、自分で選んだ好みの服を着てもらえるように、見守りや支援を行っている。出張理美容院では、本人の希望に合わせてカットしてもらい、行きつけの理美容院を希望される方は外出支援をしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、隣の田畑や中庭でとれた季節の野菜を食材としたメニューを取り入れている。利用者と職員と一緒に調理から食事、後片付けまで楽しく関わられる家庭的な雰囲気づくりを心がけているが重度化しているため一部の方となっている。職員と利用者が同じ食卓に付いて一緒に食事をとっている。	2ユニットのキッチンが背中合わせに配置され、職員が分担して作業しやすく、また利用者も手伝いやすく設計されている。野菜を切ったり、テーブル拭きや後片付けで利用者は参加している。当番職員の考えたメニューに事業所の菜園から野菜が届き、食卓を彩る。毎日、全職員と一緒に食事をしており、利用者は笑顔で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日記録し、一人ひとりの状態を把握できるようにしている。本人の状況や好みに合わせて食事の工夫をしている。イレウスの方が2名いるので禁止の食品をはずしたり代替の物を提供している。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関: 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己 者 第	三	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士に来て頂き利用者個々の歯磨き指導を受け日々のケアに活かしている。利用者に合わせた声かけ、介助を行い口腔内の清潔保持や嚥下障害による肺炎予防に努めている。毎食後口腔ケアをしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導によりトイレで排泄できるよう支援している。尿もれ予防体操や散歩等で筋力を維持し、自尊心や不安に配慮し、まわりの人に気付かれないよう、そっとトイレにお連れしている。 安眠確保の為にパットの工夫をするべく起こすことはしない尿意のある方は誘導。	介護用品業者の協力のもと、多様な給水量のパットを活用し、基本的に夜は起こさない睡眠優先の支援を行っている。ほとんどの利用者が立位が可能のため、ポータブルトイレは使用していない。1ユニットに3か所のトイレがあり、利用者はそれぞれ使いやすいトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために食物繊維と水分補給を心がけている。毎日のラジオ体操や散歩でも、水分補給を徹底し便秘の予防に取り組んでいる。また排便の回数・量を毎日記録し、把握するようにしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2日に1回のペースで、本人の意思を優先した声かけを心がけ、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるようにしている。毎日入浴している人もいる。	1日に4人ずつ、それぞれ隔日に入浴している。利用者は職員と歌を歌ったり、お喋りを楽しんだり、ゆったりと入浴を楽しんでいる。希望して毎日入浴する利用者もある。併設事業所に機械浴があり、ゆくゆくは利用する予定である。利用者は風呂上りの冷たい麦茶を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外にリビングや座敷、ソファ等で心地よく休んで頂ける様に配慮している。個々のリズムに合わせて昼寝をしたり、日光浴や運動で体を動かし心地よい眠りにつける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方されている薬に関しては、写真付きの説明書を綴じていき、いつでも職員が確認できるようにしている。また服薬の変更の場合は職員引継ぎノートに記入し送り時に確認し共有している。 誤薬防止の為に、服薬の際は表示(氏名・日付・服薬時)を必ず利用者と一緒に確認し服用も最後まで見届けるようにしている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関: 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己 者 第 三	項 目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食器洗い、掃除など、1人ひとりの力を生かして、張りのある生活が送れるよう支援をしている。また生花、ぬり絵、歌、読書、嗜好品など、趣味や楽しみをことが続けられるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や近隣への散歩を習慣にしている。天気の良い時は、スタッフや家族との買い物を愉しみにしている。	利用者の重度化が進んでいるので、以前より機会が減っているが、中庭や近隣の寺や神社に散歩に出かけている。桜や桃の花見を兼ねての散歩は利用者の楽しみとなっている。花吹雪の花びらを顔に受けて、利用者は満面の笑みで春を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で自由に使えるお金を預かっており、そのことを常時、利用者に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が間に立ち、自由に出来るように配慮している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間を設け、リビングでは自分の椅子と共にソファやリクライニングチェアで好きに過ごすことができる。床暖房で温かい。通風や採光にも恵まれ、食卓等に飾られたいとりどりの生花で季節を感じてもらえるよう配慮している。座敷で寝られる方もある。	2ユニットが左右に繋がっており、利用者は口腔体操やリクリエーションの都度、どちらかのユニットに集まっている。元利用者の家族から届く生花が飾られ、利用者は花瓶に生けたり、絵を描いたり楽しみとなっている。畳の間では洗濯物たたみをする利用者もある。リビングや廊下はクッションフロアのため、転倒時にもダメージが少ないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思いを優先して、穏やかに過ごせる場所を時々に応じて用意するようにしている。リビングのソファや庭のベンチ等も用意している。 パーティションで仕切った1人用空間を作っている。また、なるべく家に近いように、畳の小上がり、フローリング床、台所も住宅用、風呂もユニットバスで個浴としている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関: 特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮	なじみの品や家具仏壇等を持参(持ち込んでもらい)配置し、居室で落ち着ける工夫をしている。	居室のドアは茶色の濃淡に色分けされ、利用者の目印となっている。作り付けのクローゼット、ベッド、防炎カーテン、壁にハンガーかけが用意されており、利用者は馴染みの家具や衣装ケースを持ち込んでいる。塗り絵などの自分の作品を掲示し、持ち込んだ絵画を飾りそれぞれ落ち着ける空間をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの位置を分かりやすくして、安全に移動できるよう手すりを設けている。 台所とリビングは隣接し職員と一緒に調理できるようになっている。 洗濯物等を干せる人はハンガーやピンチを使って干し外へ出せるようにしている。		